

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		7,249	t-CO ₂
（温室効果ガス削減換算排出量）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑨エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑨合計）		7,249

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度			
温室効果ガス総排出量	7,096	t-CO ₂	6,883	t-CO ₂	7,249	t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			3.0	%	▲ 2.2	%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度			
原単位当たりの排出量	106.1	kg-CO ₂ / m ²	102.9	kg-CO ₂ / m ²	108.4	kg-CO ₂ / m ²		kg-CO ₂ / m ²		kg-CO ₂ / m ²
削減率（対 基準年度）			3.0	%	▲ 2.2	%		%		%
原単位当たりのみなし排出量						kg-CO ₂ / m ²		kg-CO ₂ / m ²		kg-CO ₂ / m ²
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

夏季、冬季の外乱によるエネルギー使用量が増加となった。省エネ工事を進めるようにしたい。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び非化石エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源化の推進 冷暖房	休日・夜間、無人となるエリアの空調機停止。空調開始から30分外気導入の停止（自動制御にて）。外気冷房の活用、全熱交換器の運用改善、4管式空調の2管式運用。病室、外来を適正な環境で管理（夏期：26℃/60%、冬期：25℃/35～45%）。扇風機及びサーキュレーター活用。	全熱交換器の更新を図る。ファン及びポンプ更新時は高効率の物を選択。ファン及びポンプのインバータ化を検討。2管式運用の精度向上。 全熱交換器運用の精度向上。中間期のエアコン使用を短縮する様検討。緩和エアコン更新（計画期間中）。	緩和エアコンの更新実施。
省エネルギー・省資源化の推進 熱源2	中間期における熱源機器の冷水出口温度を上げ、温水出口温度を下げて運用。冷水、温水共に大温度差で運用。CGS排熱利用はエネルギー消費効率が良い温熱利用を推進。中間期の熱源機器は電力を中心（デマンド留意）。2次冷温水ポンプの送水圧力を過度にあげない（夏期は冷却の他、除湿に留意）。	冷水1次ポンプのインバータ化を検討。冷水2次ポンプ複数台運転時の並列でのインバータ化を検討（自動制御要変更）。ブリードインの精度向上。フリークーリングの精度向上。夏期も積極的にCGSを運用し電力平準化に貢献する。	夏場のCGSの利用率を向上。
省エネルギー・省資源化の推進 電力	空部屋の消灯並びにエアコン停止を徹底（AHU管理の病室は 注意が必要）。共用照明の夜間消灯若しくは間引き点灯（スケジュール管理）。蛍光灯照明器具をLED照明器具へ更新。緩和棟エアコンの更新。	消灯及びエアコン停止は省エネ委員会で啓蒙。LED照明器具へ全数更新（計画期間中）。緩和棟エアコン更新（計画期間中）。共用照明のタイムスケジュールは定期的に見直しを実施。空調用冷水過冷却及び空調用温水過熱により空調機の風量を少なくして運用。	緩和照明をLED化を実施。随時LED化を進めている。
一般管理 エネルギー使用量等の把握及び管理	エネルギー使用量の計測・記録・分析。中央監視システムで2次側環境を管理。BEMSにてエネルギー使用動向を分析。管理標準の定期的な更新並びに見直し。主要設備の点検・記録・管理。設備台帳の整備。省エネ会議での運用確認並びに改善。	管理標準は定期的に見直しされる。管理標準は改正省エネ法に準ずる。設備台帳を整備する。予防保全に努め不慮の故障が起こらない様対応省エネ委員会にて運用の検証を行い省エネを推進する。	故障エアコンについては修理か更新の判断を部品供給状況だけではなく、設置年度より判断するように変更。
省エネルギー・省資源化の推進 給湯	CGS排熱の優先的な利用。太陽熱システムの有効利用。	CGS排熱の給湯利用を促進する事で、給蒸の集中的な需要が軽減（ボイラ負荷低減、高燃焼への移行を阻止）。太陽熱の有効利用により給蒸を削減。	CGS排熱利用100%に近づけている。

指針第2号様式

(2) 非化石エネルギーの利用の状況

ア 非化石電気の使用状況

指標	非化石電気の使用状況						目標 (2030年度)	
	令和 6年度		令和 7年度		令和 8年度			
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	17.4	%		%		%		%

イ 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における非化石エネルギーの利用状況

非化石エネルギーの使用量	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
k1	t-CO ₂

(3) 未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における未利用エネルギーの利用状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ アのうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	未利用エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(4) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(5) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(6) 電気の需要の最適化に資する措置を実施した日数

日

(7) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

照明の間引き点灯、夜間消灯。OA機器は省エネ効率の良いものを導入する。未使用時は自動で電源が切れるものを導入する。コピー用紙は裏紙も使用し省資源化、DX化に伴い、ペーパーレスを試験導入。廃棄物は可能な限り再利用できる様、分別に心掛ける。就業時間外のエレベーター一部停止。

(8) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

省エネ委員会での啓蒙活動で取り組むべき事項は説明している。内容は階段使用の励行（2アップ3ダウン）、カーテン使用により日射の阻止、照明の消灯、不必要箇所のエアコンの停止推奨、ポスター掲示による啓蒙等である。